

法然上人における内証・外用について

曾 根 宣 雄

I

法然上人（以下敬称を略す）は、阿弥陀仏及び仏を説明するの
に内証と外用という分類を用いている。『逆修説法』四七日では、

仏有^ス二惣別二功德。先惣者、四智三身等功德也。一切諸仏内証等具、一仏無^レ異故、諸經中説二仏功德、惣不^レ説二内証功德、唯別説二外用功德一也。

と説き、『選択集』第三章では、

初勝劣者、念仏是勝余行是劣、所以者何名号^{ナマヘ}是万徳所^{スベテ}歸^ス也然則弥陀一仏所有四智・三身・十力・四無畏等一切内証功德相好・光明・説法・利生等一切外用功德皆悉撰^ス在^ニ阿弥陀仏名号故名号中功德最^ニ勝也余行不^レ然各守^ニ二隅一。

と説いている。

これらを整理するならば、

内証―四智・三身・十力・四無畏等↓（諸仏平等）

外用―相好・光明・説法・利生等↓（仏の個別性）
ということになる。

いうまでもなく、内証・外用というのは、一仏を二つの視点より説明するものである。内証とは、仏の内なる悟りをいうものであり、「所証の理」を意味する。一方外用とは外に現れたる働きをいうものであり、「撰化利生の用」を意味する。いうなれば、内証は無分別智といふべきものであつて無相であり、外用は後得智であり有相である。外用については語義と内容が一致しており、特に問題はない。問題は内証の方である。なぜ「所証の理」である内証に、有相や作用を想定させる内容が示されているのだろうか。内証と外用を対比して説いていないのであればともかく、ここでは仏の功德を「内なる悟り」と「外に現れたる働き」という視点より説明しているのであるから、内証中の有相や作用を想定させる内容については考へてみる必要があるだろう。もう一つの問題は、内証・外用という論が一仏を二つの視点より説明してい

ることより、二身論を背景にしていると考えられることである。法然は内証・外用と二身論の関係については触れていないのであるが、内証・外用が如何なる定義を背景にして説かれているものなのか確認するためにも検討してみる必要があるだろう。以下、石井教道博士が『選択集全講』において典拠としてあげられている経論を中心にみて行くことにする。

II

まず、内証中に説かれている四智・三身より考えてみよう。『大乘本生心地観経』には、

善男子。其自性身無始無終。離一切相絶諸戲論。周円無際凝然常住。其受用身。有二種。一自受用身。二陀受用身。——中略——四智円満。是真報身受用法楽。——中略——如是四智而為上首。具足八万四千智門。如是一切諸功德法。名為如來自受用身。諸善男子。二如來陀受用身。具足八万四千相好。

と説かれている。ここで注目されるのは、受用身が自受用身と他受用身に分類された上で、自受用身中に四智が説かれ、他受用身中に八万四千の相好が説かれていることである。先に述べたように法然の説く内証と外用は、それぞれ四智と仏の相好をあてはめている。受用身中の自受用身をもって真報身とする定義は、法然の説と相容れないものであるが、受用身・報身・阿弥陀仏と考えるならば、内証と外用と自受用身

と他受用身をそれぞれ置き換えて考えることは可能であるだろう。内証は仏の内なる悟りをするものであるが、種々の煩惱を断じ法樂を受用したことを意味する自受用身と内容的には近いといつてよいだろう。また、四智が自受用身中に説かれていることや、他受用身が八万四千の相好を有し有相であることは、法然の内証・外用論と類似している。法然が全面的に『大乘本生心地観経』の所説に基づいているとはいえないまでも、内証・外用と自受用身・他受用身の関連が指摘できるだろう。自受用身中に四智が説かれていることは、四智を仏の悟りそのものとしていうことができるのである。四智を仏の悟りそのものとしていうことができるのである。四智を仏の悟りそのものとしていうことができるのである。四智を仏の悟りそのものとしていうことができるのである。

『成唯識論』には、

此牟尼尊所得二果永離二障亦名法身。無量無辺力無畏等功德法所莊嚴故。体依聚義総説名身故。此法身五法為性。非淨法界独名法身。二転依果皆摂故。如是法身有三相別。

と説かれた後、三身についての説明がなされている。ここでは、法身には淨法界をいう場合と、仏が悟りを得たこと（真如と同一となった境界）を指す場合があることが示された上で、法身には三つの相別があることが述べられている。法然の内証の三身を考える上でこの所説は非常に注目される。法身に三つの相別があるという説き方は、三身が一体的な形で

説かれた場合、それが法身（理智不二）の意を有することがあることを示している。法然が内証の三身を理智不二の意で捉えていたとするならば、内証の中に三身が説かれていたとしても何ら問題はないからである。

さらに『摂大乘論』には、

如是已説彼果斷殊勝。彼果智勝云何可見。謂由三種仏身応知彼果智殊勝。一由自性身。二由受用身。三由變化身。此中自性身者。謂諸如來法身。一切法自在転所依止故。受用身者。謂依法身種種諸仏衆会所顯清淨仏土。大乘法樂為所受故。變化身者。亦依法身從觀史多天宮没。受生受欲踰城出家。往外道所修苦行。証大菩提転大法輪。入涅槃故。

と説かれている。長尾雅人博士はこの部分の解説の中で、

「自性身というのは……法身のこと」というが、法身なる語はその意味で用いられると共に、本書では広く三身を総括し、殆ど単に仏身というのと同じ位の意味で法身ともいうようである。自性身にふさわしくないようなことも、法身の下に述べられているからである。

と述べられている。このことは、法身という語が広く三身を含む場合があることを指摘されたものであるが、先の『成唯識論』の所説と同様に三身が一体的に捉えられる場合法身的な意味を有することを示している。法然の内証の三身が内証に具足された仏果を示すものであり、理智不二を意味するも

のであることの根拠を示すものであるといえ、注目してよいだろう。

続いて十力と四無畏についてもみてみよう。『大智度論』第二九には、

問曰。是十力四無所畏功德。亦各有別相。云何説法身無相。答曰。一切無漏法十六行三三昧相。故皆名無相。仏欲令衆生解故。種種分別説。

と説かれている。ここでは、十力と四無畏が有相ではなく無相であることを示している。法然が『大智度論』に基づいて十力と四無畏を無相と捉え、内証の中にあてはめたのかどうかは不明であるが、少なくとも無相と定義されるならば、内証中に説かれても矛盾は生じないといえるだろう。

次に内証・外用と二身論の関係についてみてみよう。純粹淨土教における二身論としては曇鸞のものがあげられるが、紙面の都合上ここでは関連が深いと考えられるもののみを取り上げてみよう。『大智度論』第二九には、

問曰。十方諸仏。及三世諸法皆無相。今何以故説三十二相。一相尚不。何況三十二。答曰。仏法有二種。一者世諦二者第一義諦。世諦故説三十二相。第一義諦故説無相。有二種道。一者令衆生修福道。二者慧道。福道故説三十二相。慧道故説無相。為生身故説三十二相。為法身故説無相。【仏身以三十二相八十隨形好。而自莊嚴法身。以十力四無所畏四無礙智十八不共法諸功德莊嚴衆生。】

有二種因縁。一者福德因縁。二者智恵因縁。欲引導福德因縁衆生故用三十二相身。欲以智恵因縁引導衆生故用法身。

※【】は筆者が挿入した。

と説かれている。

A―世諦・福道・生身・福德因縁―三十二相

B―第一義諦・慧道・法身・智恵因縁―無相

というようにA 有相とB 無相が対比して説かれている。

仏の方便として有相を説明しているといえるだろう。【】の部分有望月仏教辞典によるならば「仏身は三十二相、八十随形好を以て而も自ら莊嚴し、法身は十力四無所畏四無礙智十八不共法のもろもろの功德を以て莊嚴す。」と読むことになる。そうするならば、

仏身―三十二相・八十随形好―有相

法身―十力・四無所畏・四無礙智・十八不共法―無相

というように整理することができる。ここでの法身というのは、真如そのものではなく理智不二を示すものであるから、法然の説く内証と同義であると考えてよいだろう。一方仏身は、直接的に作用を説いていないものの有相を示すものであり、法然の外用の概念に近いといえることができる。また、内証・外用に説かれている項目と『大智度論』の法身・仏身の項目がほぼ同内容であることは注目してよいだろう。法然がこれに基づき内証・外用論を展開させたかどうかは確認で

法然上人における内証・外用について(曾根)

きないものの、関連性は指摘できるであろう。このことは、内証・外用という論が「悟り」と「仏方便」という視点より説かれる二身論によっていることを示していると考えられる。

Ⅲ

法然の内証・外用論における第一の問題は、内証が「所証の理」を意味するものでありながら、何故に有相や作用を想定させる内容が説かれているのかということであった。これらは、いずれも内証に具足された内容が、悟りそのものの(理智不二)を意味するものであると解釈してよいだろう。法然が内証中に四智三身等を説いていたとしてもそれらは、有相や作用を意味するものではないのである。

また、法然自身は内証・外用の説明の中で二身論を持ち出してはいないが、仏を「悟り」と「仏方便」という視点より説く『大智度論』の二身論と定義及び内容が類似しており、関連性は指摘できるであろう。

※紙面の都合上註は略す。

※なお詳しい内容については、拙稿「法然上人における内証・外用」①『仏教文化学会紀要』第二号所収)及び「法然上人における内証・外用」②『仏教文化紀要第三号』所収)を参照していただければ幸いである。

〈キーワード〉 法然、内証、外用

(大正大学総合仏教研究所研究員)